

市民の批判と共に生きる北欧デンマークの軌跡

Nazisme og kunst blandes ved Vesborg



藤森 修 (ふじもり おさむ)

東海大学芸術工学部建築・環境デザイン学科准教授

1969年生まれ。1994年芝浦工業大学修士課程終了。都内設計事務所勤務後、2000年度デンマーク政府奨学生として国立オーフス建築家大学に所属。03年に同大学を卒業し同国の建築家協会の会員となり戸建住宅の設計に従事。05年帰国後、北欧の建築を継続的に研究するとともに、社会のストレスが引き起こす犯罪を、建築の計画によって食い止める可能性を追求している。デンマーク建築家協会会員。北欧建築・デザイン協会会員。京都造形芸術大学非常勤講師。東京芸術学舎講師。

※ 写真はデンマークの新聞記事「ナチスと芸術の統合」

幸福をはかる基準

グリーンランドと一部の諸島を除くと、北海道にも満たない国土面積である北欧の小国・デンマーク。首都はコペンハーゲン。札幌と面積、人口共に近い。(第2の都市オーフスも、面積・人口共に旭川に近い)

酪農や福祉、工芸、家具デザインなどで知られ、風車が点在する牧歌的な郊外の風景は、道内との共通点も多い。幾つかの機関で各国の「幸福度」を測るという試みがある。デンマークの幸福度は世界第1位という。簡素で洗練されたデザインが世界で支持されているデンマーク。社会福祉国家としての手厚い福祉制度にその結果を結びつける議論もあるけれど、市民が自分の街や環境づくりに介入しているという誇りは幸福度を押し上げているのだろう。



デンマークの週末風景、コロニーヘヴ（家庭菜園と小屋のコロニー）
都心の集合住宅では味わえない自然と隣人関係を培う役割を担う、住空間のサプリメント効果。道内にある滞在型市民農園にも影響。

靴と共に生活すること

「日本人はなぜ家で靴を脱ぐのか」と質問されたことが多い。靴を脱いで椅子に座る。彼らにとっては謎の風習だろうか。筆者がデンマークで生活していたとき、やがて靴を脱がない風習に慣れ、家の床の傷が気にならなくなったころ、自宅のリビングルームと街とが継ぎ目なく連続していく感覚を覚えた。換言すれば、街の石畳の大聖堂広場や自然公園も「住まいの一部」だと思えるようになったといえよう。

こうした意識が、コペンハーゲンの幹線道路から車を締め出し、ストロイエという全面歩行者天国を実現させた。彼らの住まいの境界線は外部へと、街へと、また街を造る建築へと押し広げられていった。



コペンハーゲンの賑わいのある市庁舎前の広場



コペンハーゲンのストロイエ
17世紀から19世紀に建設された建物が保存されている街並み。
かつては馬車や車が行き交う道路であった。

市民のデザイン意識

近年の日本のデザイン誌では北欧と日本の皮相的な共通点を強調する記事があるけれど、真実は大きく異なる。日本で見られる黄色い誘導タイルは、デンマークでは盲人ですら美観的側面から反対すると聞いた。市民の審美眼のルーツ。確にかつてのバイキングの男たちが作った武装品、木造の舟や家、都市、すべて美しい。だけれども、日常生活のなかにも何かありそうだ。こうした姿勢の積み重ねも市民のデザインへの意識に関係しているかもしれない。



コペンハーゲンの地下鉄の駅
まるで「舞台美術」のよう。人の待つ姿が美しい。

市民の建築への関心

「建築家のスタイル」を実現するためのSignature Designはこの国では求められない。公共建築のほとんどが設計競技によって実現するために、建築家の「署名」ではなく、プロジェクトの「解決法」が求められる。日本の建築専門誌でありがちな、建築家の私的な世界を強調するプレゼンテーションは見当たらず、都市の抱える問題を、建築設計を通して解決していく、という姿勢が貫かれている。



klostergade project / Aarhus
聖母教会広場の犯罪多発地域での計画案。筆者の提案から。

デンマークの一般市民は、新しい建築プロジェクトの動向に大変興味を持っている。デンマーク人は権威を嫌い、平等意識が高く、幼年期から教室の机を円形に囲み、積極的に議論する教育を行うという。新しく建設される建築プロジェクトのデザインが周辺環境にあうかどうか、本当にこれが必要なのか、市民も積極的に議論に関わってきたという。例えるなら、まるで家族で話し合っリビングルームに置くソファを選ぶように、最終的には現地で制作した実物の模型（モックアップ）を前に、選挙のように投票で建設の有無を決めることになる。

北欧デザインを表現する際の常とう句である「シンプルで静謐なデザイン」は万人に愛され「自然」と受け入れられたようにみえるが、当時は激しい議論を生み、デザイナーを苦悩させたという。筆者の恩師であるデンマークの教授から、「この国では賛否両論が生じる建築こそが最高の結果」であると聞いたことがあった。

美しいバイキングシップであっても座礁が多いようだ。今ではデンリッシュデザインの名作と呼ばれ、皮相的には静かにたたずむ建築作品も、当時は多くの意見が飛び交ったことだろう。例えばコペンハーゲン市庁舎の塔の高さと肩を並べる、デンマーク・モダンデザインの巨匠アルネ・ヤコブセンが設計した、SASロイヤルホテルでは、外観の色調をグレーがかったグリーンにするなど、高層建築の威圧感を和らげる工夫はあるものの、歴史的な街並みの中にまるでニューヨークでみられるような未来的なビルを建設することに批判が多かったという。当時は「醜いマッチ箱」とやゆされたという。皮肉なことだか、今では市民に愛されている。ホテルの全面改装の折には、ヤコブセンのオリジナルデザインを残そうという市民運動があり、一室に限り実現された（ヤコブセン・スイート）。この奇跡には継続的に予約が集中し、特に日本人に人気というから驚きだ。



コペンハーゲンのSASロイヤルホテル
建物を「コペンハーゲン・ブルー」の空に同化させ、威圧感とモニュメンタリティを可能な限り弱めている。戦後のアルネ・ヤコブセンの代表作で知られる。

また、デンマーク第2の都市オーフスのアロス美術館では、当初は白亜の外観の設計競技案が選ばれたものの、周囲にマッチする赤レンガの古典的なたたずまいへの改案に落ち着いた。こうした市民にほんろうされる建築家の地位は高く、銀行で順番待ちをしていると、名前の前に肩書きを付けて呼ばれることも近年ま

で続いたという。その反面、市民の厳しい判断で座礁したり批判されたりと、なかなか思い通りにならないようだ。



オーフス（デンマーク第2の都市）のアロス美術館
古典的な赤レンガの街並みに歩調を合わせつつ、21世紀の空気を吹き込むことに成功している。

「保守的なコペンハーゲンは、何でも受け入れるトウキョウを見習え」という意見もある。同世代の建築家との交流の中で、筆者もよく耳にしたことがある。アルバイト学生さえも設計を担当しなければ、次々にあふれる仕事が消化できないという特異なバブル時代に建築を学んだ筆者は、かつての経験に白け、デンマークの真摯な保守性に引かれて留学することになったのであるが、この意見には複雑な気持ちで傍観していた。

シドニーオペラハウスを設計したデンマークの建築家、ヨーン・ウッゾンには、牧歌的な環境に対して、景観上プロジェクトが合わないと中止された文化施設の計画があった。晩年に計画したささやかなタワーは、建築界ではリスペクトされたものの、プロジェクトの内容を冷静に判断した周辺住民からの反対で中止されてしまった。「ビッグネーム」に惑わされ、思考停止状態に陥らずに、良しあしを冷静に判断する市民の姿勢は、時に宴の気分を白けさせ、華やかなプロジェクトを抹消してきた。彼らの意思は、われわれの事情とは大きく異なっている。この国では竣工後にですら、「計画の建築模型と実施後の印象とが異なる」という取り壊し運動が珍しくない。

「われわれはイタリア人ではない。『歩行者天国』を使いこなせる精神性はない」と反対の意見も多かった

そうだが、1962年11月17日、幹線道路から車を締め出し、全面歩行者天国（後に日本初の旭川の歩行者天国に影響したという意見もある）を実現させた前述のストロイエや、一度埋められて車道になった古い運河を近年になって掘り起こしたりするなど、新奇性を狙わない着実な計画と市民を交えた厳しい建築制限への決起が、都市デザインに結実し、世界中からの多くのツアリストを魅了していることは確かだ。ただし、看板のサイズ・色調の規制や、通りに面する建物の種ごとの幅（気分を高揚させない銀行や医院などは5メートル以下）など驚くほどの規制が課せられている。



オーフス市の道路から運河への修景
1996年まで主要幹線道路であったが、車を締め出し、30年代の運河の風景に戻したプロジェクトである。建物の顔（ファサード）が、運河に向けて開かれている。

言葉と景観

デンマークでは「敬語」を廃止することで、年齢・身分をこえ意見が言いやすい環境づくりがなされてきた。わが国が美德とする、言葉の習慣。それが、先代が用意した街や環境づくりに意見することを難しくしているのだろうか。ここでは持論を展開しないが、言語構造の明せき性・煩雑性はデザインの良しあしに影響するのではないだろうか。デンマーク語の構造は非常にシンプルで婉曲的なレトリックや隠喩の「仮面」がない。言いたいことだけを伝達する。

清潔で美しくデザイン性に優れたコペンハーゲンのカストラップ空港を経て、10数時間後には成田空港のインテリアデザインの質にため息をつく。成田空港発の電車の車窓から外を眺めると、デンマークの法律より厳しいルールが課せられているとはいえ、そのルー

ルが正しいものと疑いたくなるような残酷な景観と、それを真剣に眺める自分の表情が二重写しとなる。しかし、日本には数え切れないほどの有能なデザイナーがおり、専門誌に掲載される「単品の」作品の質は北欧を凌駕しているともいえるだろう。また、歴史に影を落とす高速道路の審美的側面が議論されたり、奇抜なデザインの家や鮮やかな色調のビルが日本の住宅地やオフィス街の景観に合わないとする倫理意識が日本の社会でも芽生えてきている。個人的には日本橋の高架道路を偏愛しているし、議論の内容に賛否はあるものの、こうした動向を評価したいと考えている。



コペンハーゲンのカストラップ空港

住環境への反省と変貌

大きな窓越しに豊かなランドスケープが展開するデンマーク・ユトランド半島の刑務所。米国の富裕層の住宅地として知られる「ゲーティッド・コミュニティ」のようだ。果たしてこのシングルルームにて受刑者は反省するのだろうか。デンマークでは「住環境に対する満足度」も世界トップクラスである。都市中央部のアパートの住居面積はさほど広くない。隣家と寄り添って建てられている日当たりの悪いアパートの問題を解決するために、都市公園が住環境のサプリメントとなっている。かつてウォルトディズニーが注目したという19世紀に造られたテーマパーク・チボリ公園もその一つである。

1960年代になって、この国では集合住宅の方向性の議論が繰り返された。当時主流であった高層型集合住宅はデンマークにふさわしくないと運動が生じ、非人

間的な巨大な住環境を反省し軌道修正された。市民は低層を選んだのである。かつての高層住宅のコミュニティは崩壊し、その後移民などによってゲトー化するなど、社会悪化の原因となった。これを予期していたのだろう。いまでは取り壊しの話も出てきているようだ。



パーブランドのゲトー化した集合住宅
住棟間隔が広く、地上での状況を自然監視できない。住戸当たりの面積が恵まれているために、素行不良な移民も大家族で住むことで知られる。男性であっても屋外へのゴミ出しが危険なためダストシュートが採用されている。デザインが誘発する犯罪。



パーブランドの低層集合住宅の例
建設工事の残土を活用し、起伏のあるランドスケープが提案された。屋外のどこにいても「誰かに見られている」安心感がある。非常に人気で住みやすい住環境だが、刑務所の「名作」で知られる建築家集団の作品でもある。両者の質の差が見られないことは皮肉か。

わが国では赤坂に建てられた高層型議員住宅がリッチだとせん望的になったことがあったが、彼らは理解に苦しんでいた。デンマークの貧困層向け住宅に酷似しているからだ。デンマークの友人が来日したとき、筆者の家でテレビのニュースを、言葉が分からないまま鋭い眼で見つめていたことがあった。児童が住宅地で事件に巻き込まれたという許されないものだった。通りに向かった建物の顔が閉鎖的で、死角の多い住宅地だったと思う。デンマークで同じような事件が生じたのなら、街や建築をつくってきた建築家の職能にも

責任が向けられるという。市民の片方の目は犯人を生んだ社会へと、もう片方の鋭いほうの眼は住宅地へと向けられるのだ。筆者もこの国の住宅地で住宅設計を行った経験がある。レンガの色味や屋根の角度まで決められている厳しい景観のビジョン。近隣の人たちのデザイン意識は高い。隣家の外灯のデザインがこの住宅地に合わないという訴訟があったりする。近所の子供に自作の外壁の色を非難されたこともあった。日本では直面しない困難が多かったが、理屈で反論する前に、冷静になって住宅地を歩き回ると良好な環境であると納得させられるのである。

近年、コペンハーゲンで新たな建築プロジェクトが次々に実現している一方で、提案した施設のデザインは街並みに合わないという強い市民の声によって座礁したプロジェクトは数え切れない。筆者の同世代建築家も、徹夜続きで図面を描き、完成させたプロジェクトを白紙化された経験がある。正直に告白しよう。時には建築行為を未来への「実験」ととらえたい若手建築家の野望がある。全てを無条件で受け入れてきたかのように見える、わが国の乱開発の建築文化をせん望のまなざしで見つめることもあるのだ。だが、東京の下町に巨塔を立ち上げて盛り上がる国民性など、理解に苦しむだろう。一国の幸福度を測るといえるのは無謀な試みかもしれない。果たしてその定規がどんなものか知る由もないが、この国の人たちは確かな目盛りを着実に刻んできたようだ。

冬の間のデンマーク人は寡黙だ。内省に誘う街の灯火。計画停電中の東京ですら彼らは明る過ぎると嘆くくらいだ。われわれにはもう、「塔」も「パンダ」も「ネオン」も要らないのではないか。

理屈でない、美しい街並み。ゆっくりと時間をかけて熟成し、市民の英断で変貌してゆくデンマークの行方を、もうしばらく見つめていきたいと思う。